

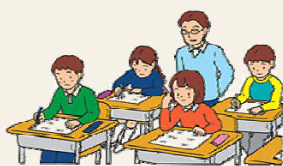
講演

1 「主権者教育のあり方」

—小・中・高校での実践を中心にして—

橋本 康弘 福井大学教育学部教授

「18歳選挙権年齢」が実現し、最初の国政選挙であった参議院議員選挙が終了しました。この間、高等学校の教育現場では、「主権者教育」の実施に向けて様々な準備が行われ、かつ、実践されてきました。また、文部科学省は、高等学校だけではなく、幼児期からの「主権者教育」を実現すべく、その内容を検討しています。本講演では、この間、実施されてきた「主権者教育」の実践を広く紹介するとともに、「政治参加教育」だけではなく、「主権者としての土台づくりの教育」の必要性について論じ、会場の皆様と議論をしていきます。



入場無料

ザ・選挙!

教育・行動・制度

進行 青木 一益
富山大学経済学部
経営法学科教授

2016年は、まさに『選挙』の話題で持ちきりの一年となりました。本セミナーでは、新有権者に向けた“教育”、一票を投じる際の“行動”、選挙戦を左右する“制度”、という3つの観点から一連の出来事をとらえます。当日は、民主主義の基盤である『選挙』をめぐる、主権者たる個々の市民が考えるべき問題がどこにあるのかを、皆様とともに探っていききたいと思います。

日時 平成28年

11月23日 (水・祝)
13:30~16:30

講演

3 「アメリカ大統領選挙制度：『合衆国』それとも『合州国』？」

川西 俊吾 北陸先端科学技術大学院大学
グローバルコミュニケーションセンター長

アメリカ合衆国は、建国以来240年余りの長きに渡って民主主義に基づく政治を行っています。その間、社会や世界の状況は大きく変わり、その変化に対応する形で、民主主義に関する諸制度も変化してきました。市民の政治参加の手段としての選挙の制度も大きな変化を遂げてきましたが、アメリカ建国の際の各州の合意による連邦政府という基本的な構造は時代を超えて存続し、各州の影響力が大きい独特の選挙システムにはまだ大きな変化が見られません。日本とは全く異なった選挙制度を理解して、その利点と問題点を考えていきます。



講演

2 「参議院選挙における有権者の投票行動」

岡田 浩 金沢大学人間社会研究域
法学系教授

今年7月に行われた参議院選挙は、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて初めての選挙ということで注目され、学校での模擬投票など若者を対象とする選挙啓発の取り組みも、これまで以上に活発に行われました。果たして、啓発の取り組みは効果があったのでしょうか。また、低投票率が続いていた若者は、この選挙にどのように臨んだのでしょうか。参議院選挙後に金沢市の有権者を対象に実施したアンケート調査の結果からみていきたいと思います。



会場

金沢大学
サテライト・プラザ
(金沢市西町三番丁16)

